まち

No.11 2018年 秋号

contents

巻頭言 …… 1
特集　まちづくり工学科初代卒業生の「職場での活躍」…… 2
イタリア、フランスの海外研修旅行 ―歴史、文化のあるまち、美しいまちを訪ねて― 10
学部3年生・修士1年生へ「就職活動へ向けて」…… 11
平成30年度前期“まち”行事・イベントカレンダー …… 12
新任教員紹介 …… 15
教職員・学生の活躍 …… 16

発　行　日：平成30年10月19日
発　　　行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎ 03-3259-0531（学科事務室）
発行責任者：岡田智秀（教室主任）
編 集 担 当：小木曽 裕、西山孝樹
制　　　作：株式会社 ムーンドッグ

巻頭言

就職活動は能動的な大人へのステップ

教授　仲村 成貴

今も昔も大学生にとって学部卒業後の進路選択は大事である。人生の岐路といっても過言ではない。未成年であった高校または大学進学時の進路選択とは、やや趣が異なる。自分で悩みながら、家族や先輩、友人、教員など周囲の人に相談しながら、成人として、これから歩む道を自分で決断することが求められる。

私が大学に入学した頃まで、世の中はバブル景気に沸いていたようだ。その頃の新卒採用は超売り手市場で、海外旅行や豪華パーティーへ招待して内々定者を他社に奪われないように引き留めようとした企業もあったそうだ。しかし、私が学部を卒業する前にバブルがはじけて不況に向かっていた。文系学生の就職難が騒がれ始めたものの、理系へは少し遅れてから影響が出たように思う。その後、経済の停滞に伴って文系理系問わず就職氷河期と呼ばれる就職難の時代が長く続いた。数年にわたって新卒採用無しとした企業も少なくなく、公務員の採用数も激減どころか募集ゼロの自治体も多くあった。就職を希望する学生が採用試験を受ける機会すら無かった。そして、数年前から売り手市場に転じて今に至っている。こういった採用枠の増減が、職員の年齢構成の偏りに現れている企業や団体もある。昨今は各方面で中途採用が盛んだが、その要因の一つかもしれない。

情報収集といった点では、バブル前後と今では大きく違う。以前は情報を探すだけでも一苦労で、周辺の人から得た情報が貴重だった。今は業界や企業の情報をインターネットで容易に収集できる。情報を手軽に得られるという面ではとても便利だが、膨大な情報から有益なものを選択することは容易ではない。過多に陥って大切な情報を見落としてしまいがちである。環境は違えど、説明会やOB訪問などで先輩職員から直接に話を聞いた方が中身の濃い情報を得やすいのは、昔も今も変わらない。加えて、近年はインターンシップも盛んである。インターンシップを開催しない企業・団体の方が珍しく、学生は参加することが当たり前になった。社会の先輩から直接に話を聞ける機会が増えているのだ。

メジャーリーガーのイチロー選手が以前どこかのインタビューで「自分でコントロールできないことをあれこれ考えても意味が無い」というようなことを話していた。就職氷河期・売り手市場、インターネット、インターンシップなどといった社会的な環境は、自分だけでどうこうできる類のものではない。企業との相性もしかりである。大学の成績が優秀であっても、自分がぜひ入社したいと強く思った企業があったとしても、相手が採用したいと思わなければそこに就職はできない。就職活動は、自分で情報を収集し、自分でコントロールできることを見定めて、できることをしっかりやり遂げ、自分で決断する、能動的な大人となるための最初のステップなのではないかと思う。

2018年度 就職活動ガイダンス 風景

まちづくり工学科 初代卒業生の

「職場での活躍」

「まち」11号は就職特集にしました。

まちづくり工学科は創設６年目とまだ新しい学科で、これから１年ごとに歴史を重ねてまいります。2017年３月卒業の第１期卒業生の進路決定率は96.9％で、2018年３月卒業の２期生は99.2％と推移しています。2019年３月卒業予定の３期生である４年生は現在、内定が出た人、継続して自分の納得のいく就職先を求める人と、皆がそれぞれこれからの社会人としての希望を胸に頑張っています。また３年生は、夏に企業や行政でインターンシップに参加した社会経験を踏まえ、秋から冬にかけて徐々に就職のモードになっています。

そのような中で、どんなところに卒業生が就職し活躍しているかは、まちづくり工学科としてはとても重要なことです。年々就職の状況も厳しくなり、在学生はもちろんのこと、高校生のためのオープンキャンパスでも卒業生の就職先についてよく尋ねられます。

そこで、今号の「まち」では、学科の特徴である幅広い就職先で卒業生が活躍されている状況を、在学生に知ってもらうことで就職への貴重な手がかりにしてもらうとともに、これから入学しようとしている高校生などにも知ってもらいたいと思い、2017年３月卒業の１期生に執筆をお願いしました。

多くの分野の中から、「建設」「不動産」「建設コンサルタント」「運輸」「造園」「公務員（土木）（建築）」分野で活躍中の卒業生を紹介します。皆さま、初代卒業生の職場での奮闘や、学生時代に力を入れたことなどをご一読いただければと思います。

《Question》

1．どんなお仕事をしていますか？
2．お仕事での目標はなんですか？
3．学生時代に打ち込んだことは？
4．後輩に就活へのアドバイスを！

・卒業生の顔写真は、在学中のものです。
・『2016年度まちづくり工学科卒業アルバム』より
・（ ）内の研究室名は、卒業当時のものです。

建設

株式会社奥村組 東日本支社土木原価部積算課

山岸 祐子 旧姓：宮澤

卒論テーマ 「青梅市内の多摩川に関わる呼び名に関する基礎的研究」（阿部研究室）

＼好きな「まち」／
恵比寿（東京）、瑞穂区（愛知県名古屋市）、阿蘇市（熊本県）

＼出身高校／
日本大学習志野高等学校

Answer 1

私は入社してから約１年間、都内の工事現場にて施工管理業務を経験し、２年目からは内勤部署である土木原価部積算課にて、工事に必要な費用を、数量や単価等をもとに算出する積算業務を行っています。積算は発注者も工事業者もそれぞれ実施するものですが、工事業者が行う積算は工事を受注するために行うもので、算出した金額をベースに入札金額を決定します。このため、積算の精度は工事を受注できるかどうかに大きく関わるので、ミスをしないよう日々緊張して業務に励んでいます。帰宅すると「頭が疲れている！」と痛感することもありますが、一方で責任のある仕事を任されているとの思いもあり、充実した社会人生活を送ることができています。

▲ 自分のデスクにて

Answer 2

積算業務でミスをしないためには、何よりも「集中力」が要求されるため、まずはその「集中力」を養い、積算の精度を上げることを目標としています。また、社会人になったとき「周りの人の良いところやすてきに思うところをまねし、自己の成長につなげる」ことを抱負に掲げました。こうしたことは年次を経ても大切なことだと思うので、「初心忘るべからず」の精神で、今後も邁進して参ります。

▲ ストリートダンスサークル『MILD HEAVEN』集合写真

Answer 3

学生時代には、ダンスサークルに所属していました。

昔から踊ることが大好きで、講義が終わるとすぐに練習場所へ向かい、練習に打ち込んでいました。サークルの合宿では、夢中になり、時間を忘れ翌朝まで踊り明かしたのを思い出します。このときに得られた「物事に打ち込む姿勢」は、今の仕事にもつながっていると感じます。

また、さまざまな大学のサークルが所属し、学生のみでダンスイベントの企画・運営を行う「関東大学ダンス連盟」にも積極的に参加しました。そこで知り合った方とは今でも交流が続いており、仕事の悩みなどを相談できるかけがえのない存在になっています。

Answer 4

「志望業界を早期に絞って、集中して就職活動に取り組めたこと」が、就職活動の成功のカギだったと思います。まちづくり工学科は、ゼネコン・住宅メーカー・観光業など「まちづくり」に関わるあらゆる業界にアプローチできますが、私は大学内・外部開催に関係なく、さまざまな就職セミナーに足を運んだことで、早期に志望業界をゼネコンに絞ることができました。業界を絞ることで集中した企業研究が可能となり、奥村組の魅力を詳細に知ることができました。

不動産

独立行政法人都市再生機構 九州支社住宅経営部環境整備課

村山 旭

卒論テーマ　「首都圏近郊都市における地域再生手法に関する研究」（岡田研究室）

Answer 1

UR 賃貸住宅の維持管理、主に団地の屋外空間再整備・インフラ修繕に関する設計・工事発注を担当しています。入社 1 年目は、団地内にある広場の再整備をしました。この広場は団地開発時のままだったため舗装や遊具が経年劣化しており、大規模改修を行いました。私は居住者の年齢や広場の設置場所や利用状況から、どうしたら居住者にこの広場を使ってもらえるかを考え、設計に必要な諸条件等を先輩に教えてもらいながら、もとは遊具主体だったのを四季折々の花や木々を眺めてゆっくり過ごせる新しい広場にデザインしました。また、団地名の「星」を舗装のモチーフに取り入れました。整備後は、近隣の保育園児が遊んでいたり、お年寄りが座って寛いでおられたりと、居住者の憩いの場として利用されるようになりました。

◀ 初めて設計・工事に携わった屋外広場

Answer 2

UR 都市機構は、私の所属する「賃貸住宅部門」や、都市再生のプロデューサーとして民間事業者や行政と協力して都市の抱える課題解決を行う「都市再生部門」、被災地の復興および防災機能の強化を図る「災害復興部門」などからなり、多方面でまちづくりを担っています。現在の仕事内容だけでなく少しずつ視野を広げて、これからどの分野に配属になっても対応できる知識と技術を習得したいです。

Answer 3

1 年次はロードバイクサークル所属だったので、船橋から舞浜まで足を伸ばすなどして体を鍛えました。2 年次以降はまちあるきサークルに所属し、まちを歩きながら見聞きしたことを雑誌『土木技術』へ寄稿しました。

また卒業研究の一環として、八千代台まちづくり WS（ワークショップ）の企画運営を行い、参加住民と一緒にまちづくりの最前線を体験しました。

まちづくりの「ハード面」だけでなく「ソフト面」から、そのまちに暮らす人の役に立つ仕事として教員にも興味があり、得意であった数学を生かして中学・高校の数学教員免許も取得しました。また、週末には英語のイベントスタッフとして、会場設営や場内案内、子どもたちとその保護者、多国籍の先生方とともに楽しい時間を過ごしました。

▲ 研究室で企画運営した八千代台まちづくり WS

Answer 4

振り返ってみますと、私の学生生活のすべてが就職活動に結び付いたといっても過言ではありません。何がどこで役に立つかわからないので、今いるところ、今ある自分を大切にして、大学時代の貴重な 4 年間のどこかにヒントがあると思って過ごしてみてください。

私は教員実習にもインターンシップにも参加しましたし、SPI 等のための勉強などすべきことが重なり、正直しんどい時期もありました。とにかくあきらめないで挑戦してみることで、やったことが自信につながり、現在の私を支えてくれています。今となってはいい思い出です。皆さんも、それぞれのベストを尽くしてください。

社員一丸となって最新の知識を身につけています ▶

Answer 1

インフラ整備の各分野において、企画から調査、計画、設計、維持管理までの各段階で、技術やサービスを提供しています。構造部では、「橋梁」についての業務を行っています。設計については、構造性や経済性、景観性など、さまざまな視点から最適となる橋梁形式を選定する「橋梁予備設計」や、上部工から基礎工の細部までの設計を行う「橋梁詳細設計」を行います。維持管理については、寿命を迎える橋梁の補修・補強や点検、調査を行います。

Answer 2

構造分野では、経験から答えを出す場面が多数あるので、さまざまな内容の業務を経験し、知識を積み上げていくことです。提案する内容に常に疑問を持ち、「なぜこの構造が最適なのか？」「この状況の場合には、なぜこの手段なのか？」と、自分が納得するまで勉強していきます。提案するときには、発注者にわかりやすく説明できるようにし、品質では、表彰を取れるように品質を確保していきたいです。数年後には自分で業務を進め、自ら提案し業務を回していきたいです。

Answer 3

学生時代は、スキーやスノーボードのサークルに所属していました。合宿では、経験豊富なメンバーが率先して指導し、技術力を磨きました。学部祭で出店したり、夏は海に行ったり、楽しい学生時代を過ごしました。

また、宅配や塾講師など、さまざまなアルバイトを経験しました。塾講師の個別授業では、生徒とコミュニケーションを取りながら弱点や苦手を見つけ出し、生徒の苦手な点を徹底的に指導することで、志望校に合格させることができました。

▲ 同世代だけでなく先輩・後輩との関係も密にできたサークル活動

Answer 4

就職活動をするにあたり、インターンシップへの参加は必要となります。自分の興味のある分野の仕事がどのようなものなのか、これから働く職場の雰囲気を知るために参加したほうが良いです。先輩と交流することでさまざまな情報を入手することができます。自分の希望する企業や職種で働いている未来を想像しながら就職活動を進めていくことです。大学で勉強したり遊んだりしながら自分の好きなことを見つけ、早めに就職活動を始めるのが良いでしょう。

建設コンサルタント

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 関東支店構造部

島森 晃一

卒論テーマ　「実測規則と数値モデルに基づくバランスド扁平アーチ橋の振動特性把握―斜材背面地盤のモデル化―」(仲村研究室)

＼ 好きな「まち」 ／
横浜みなとみらい

＼ 出身高校 ／
神奈川県立横浜栄高等学校

◀ 新国立競技場の最寄り駅「青山一丁目駅」に新たにエレベーターを設置する工事の積算のため現場調査

Answer 1

東京メトロの改良建設部で､「積算」という仕事をしています。「積算」とは、一言でいえばメトロ駅の改良工事にかかる適正な工事金額を算出する仕事です。この「適正な」というのが実はとても大切なワードです。会社として工事費削減を目指しつつも、必要な人、資材、機械を確保し、またそれらにかかる安全は担保されていないといけません。さらに、ほかの工事と大きな金額の差は無いかといった「公平性」や、施工期日、またそれらが本当に実現できるのか？　など、多くのことを思慮して改良工事の「適正な」価格を目指す仕事です。

Answer 2

工事の施工状況を想像することのできる豊富な経験と知識が要求される仕事なので、２年目の私には正直わからないことだらけですが、わからないことは先輩方にしっかりと伝え、教わっています。ベテランの先輩方に囲まれていることもあり、部全体として工事費の削減に取り組む有志の活動にも参加させていただきました。あまり新人が配属されない部署なだけあって､学ぶことは多くあります。今後､改良工事の施工管理を行う現場で、発注者として、施工業者に適切な指示を出せるようになるのが目標です。

Answer 3

理工学部サッカー部のマネジャー活動に打ち込みました。先輩マネジャーがおらず、活動が明確化されていない状況だったので、プレーヤーとの仕事の調節に戸惑いました。ですが、練習試合や大会合宿などはできるだけ参加し、できる仕事を率先して行うことで活動の幅を広げられ、プレーヤーとの信頼関係の構築にもつながりました。また、次年度に多くの後輩が入部してくれたのも大きな励みとなりました。プレーヤー主体ではなく、一緒に楽しめる部になれたと感じています。自分が引退した後もマネジャーが存続していることは誇らしいことです。

Answer 4

これから就職活動をするにあたって、まずは自分がどんな仕事をしたいかを考えてみてください。「まちづくりがしたい！」だけでは、なかなか企業選びに結び付かないかもしれません。私の場合は、自分は何が好きか、どんなことにやりがいを感じるか……といったアプローチから考えてみました。それを考える上でも、今後開催される説明会やセミナーには積極的に参加してほしいと思います。やみくもに行ってみる必要はありませんが、吸収できることは必ずあると思います。ゼミの仲間と情報共有するなどして、億劫がらずに取り組んでほしいです。

▲ 理工学部サッカー部に女子部員が増えました！

＼ 好きな「まち」 ／
京都

＼ 出身高校 ／
筑紫女学園高等学校
（福岡県）

運輸

東京地下鉄株式会社 鉄道本部改良建設部

石松 玲

卒研テーマ　「空港の多様性に関する基礎的研究—乗降目的以外の役割に着目して—」（天野研究室）

＼ 好きな「まち」 ／
府中市

＼ 出身高校 ／
日本大学鶴ヶ丘
高等学校

造園

株式会社石勝エクステリア 施工本部住宅造園工事部

茅沼 陸王

卒論テーマ 「東京都多摩地域における公園のユニバーサルデザイン評価に関する基礎研究」（依田研究室）

Answer 1

私は新築建売住宅の外回り（外構）工事を担当しています。いわゆる現場監督です。お施主様のご要望に応えた図面を営業・設計の方が描き、それを形に変え、提供するのが仕事です。工程、予算、品質、安全この４つを管理しつつ、現場がスムーズに終わるよう段取りします。現場監督というと体力的に大変そうなイメージがあるかと思いますが、実際には建築の工事担当としっかり話し合い、職人さんにどう収めたいのかをうまく伝え、設計担当にはどこが大切な部分なのかを聞く、といったように、体を動かすわけではなくいろいろな人と話すことが多い仕事です。

Answer 2

私がこの会社を志望した理由は、大きな公園をつくりたいという夢があったからです。そのために、今の部署では細かい収まりを覚え、設計部署に異動になったときに活かせるようにしたいと思っています。先日、子どもたちが集まる広場の工事を担当しましたが、オープンしたときにはしゃいでいる子どもたちの姿を見て、私は感動しました。将来は、日比谷公園や昭和記念公園のようなたくさんの子どもたちが笑顔で楽しめる公園を設計したいと、あらためて思いました。今はまだわからないことだらけですが、自分の夢に向かってこの会社で頑張りたいと思います。

▲ 大切な仲間と出会ったサークルも学生時代の思い出

Answer 3

学生時代はフットサルに明け暮れていました。練習後のテスト勉強は眠気との戦いでした（笑）。選抜に選ばれたり、全国大会に出場したり、さまざまな経験ができました。その経験を活かしてフットサルサークル（Infinity）で関東制覇をできたのはいい思い出です。お金も時間もない中、学生生活をこなしながらこれだけの経験ができたのは親、先生方、バイト仲間や大学の友達のサポートがあったからです。サークルでの出会いはとても大切にしていて、互いに忙しい中でも食事に行ったり、同じチームでフットサルを一緒にしたりと、今でも連絡を取り合っています。

◀ 東映アニメスタジオ現場

Answer 4

新卒での就職活動は、転職活動と違って仕事ができないのは当たり前で、仕事を覚えた後にどれだけ会社にメリットがあるかを見られます。ということは、人事の方はやる気（途中で辞めないか）を見ています。そのやる気をどれだけ伝えられるかが、勝負の鍵となります。そのためには、面接練習を何度も行うべきだと私は考えます。面接が苦手という人も多いかと思いますが、面接は慣れです。これ以上練習しても意味がないと思えるほどできれば、おのずと結果はついてきます。人生で一度しかない就職活動。しっかり自分と向き合って、楽しんでください。

公務員（土木）

青森県 下北地域県民局地域整備部道路施設・高規格道路建設課

南 将之進

卒論テーマ　「人の視覚への影響を与える水面からの光の反射を考慮した親水空間設計法の考察」（後藤研究室）

Answer 1

青森県庁の出先機関である下北地域県民局地域整備部に所属しております。その中で、道路施設・高規格道路建設課の道路整備に配属されました。現在は、国道・県道の新設改良、現道拡幅の工事を担当しています。主な業務は工事（設計等の委託）の発注、監督です。

工事の発注業務では、決められた金額の中でどこまで工事を行うかを検討して発注を行うので、自分自身の考えで発注する設計書を作成できるという楽しさがあります。また、工事の監督業務では、主に現場状況の確認や施工検査を行い、工事現場に危険はないか、工事は設計通り行われているかを確認しています。道路が新設されていく進捗を生で実感できるので、非常にやりがいを感じております。

Answer 2

採用されて１年目に担当した工事で、掘削の施工中に法面の小段に亀裂が入る事案がありました。私はまだ知識も少なく対応に困っていたのですが、上司や先輩職員の的確な指示・アドバイスがあり、迅速に対応を行えたことで、現在は亀裂の対策工事を滞りなく行えている状況です。

そこで私の掲げた目標は、将来部下・後輩ができたときに、的確な指示・アドバイスを行うというものです。そのためには豊富な知識と経験を身につけていきたいと考えております。また、現在自分が担当している工事を着実に終わらせ、無事供用までもっていきたいと考えております。

Answer 3

１、２年次はアルバイトとサークル活動を主に行っていました。３、４年次になると、アルバイトを続けながら友人たちと一緒に遊ぶなどし、学生生活の思い出を作っていました。

また、演習の課題にはCADを利用し、CADをよくいじっていました。そのおかげもあり、業務で図面を描くときにもあまり苦労なく利用できていると感じております。在学中に何となく遊びでやったことなどが業務に生かされているので、どんどん新しいことをやった方がいいと思います。

▲ 何気なく取り組んでいたことが業務で役立つことも

◀ 自ら携わった仕事が形になっていくことを肌で感じた１年目

Answer 4

私は３年次に、青森県庁県土整備部が主催するインターンシップに参加しました。そこでプレゼンをされていた方が、同じ部署で働いています。インターンシップに参加したおかげもあり、その方とは上司・部下との関係ではありますが、大変仲良くさせていただいております。まれなことだとは思いますが、このようなことがありますので、自分が行きたい会社等のインターンシップには参加しておくべきだと思います。

公務員を目指す場合は、普段の授業をちゃんと聞き理解しておくことだけでも、１次試験に合格する確率は上がると思います。私は試験勉強を一人で行うのではなく、友達同士で和気あいあいと行ったほうが身に入りました。人それぞれかもしれませんが、良ければ参考にしてみてください。

窓口対応

Answer 1

主な仕事として、市内に建築物を建てる際に提出しなければならない申請書を受理し、その建築物が建築基準法に適合しているかどうかの審査と、工事中の中間検査および完了時の完了検査を行っています。ほかに、指定確認検査機関からの建築確認申請の報告書の審査も行います。

日々、建築物や道路に関する相談を多く受け、それに対して、地図や法文を基に調査をします。実際に現地調査を行うので、まちを構成している仕事に携わっていることを実感しています。

Answer 2

私は、相談に来られる皆様に、気持ちの良い適切な対応をすることを心がけています。相手の目を見て話を聞き、電話の場合はとくによく聞くことで、正確に理解する努力をしています。仕事においては専門知識が要求される場面が多いので、法文はすべて理解するまで読み直し、上司や先輩から教わったことをノートにとり、しっかり身につけるようにしています。経験を積み重ね、適切な回答が素早くできる職員になることが、今の一番の目標です。

Answer 3

私が学生時代に打ち込んだことは、壁面緑化の研究と部活動です。

研究活動においては、持ち前の体力を活かし、実際に現地を歩いて直接見ることで、より理解を深められるようにしていました。人前で発表する機会をいただいたことも良い経験になっています。

理工学部硬式庭球部では部長を務めていました。週に3回の練習と年に2回の合宿があり少しハードでしたが、大会に出場し試合に勝てたときはうれしかったです。

学業と部活動の両立は大変でしたが、やりきったことで得た経験や、喜びや悲しみを共有できる大切な仲間に巡り合えたことは、私の大きな財産です。

▲ 理工学部硬式庭球部

Answer 4

就職活動においては、研究室の先生方が親身になって進路相談に乗ってくださり、公務員になる可能性を与えていただきました。公務員試験は難しいと感じるかもしれませんが、私は学部で開催している講座を受講し、専門科目は二級建築士の参考書を使用し、独学で合格することができました。面接対策として、一般企業も含めて数多く受験し、面接の雰囲気に慣れるようにしました。また、受験する行政のまちを実際に訪れ、よく知ることに重点を置きました。公務員試験は長期戦ですが、最後に頑張ってよかったと思えます。応援しています。

公務員（建築）

千葉市 建築審査課

松下 依里香

卒論テーマ　「緑のまちづくりにおける壁面緑化のあり方に関する研究」（横内・押田研究室）

＼ 好きな「まち」 ／
海辺のまち

＼ 出身高校 ／
千葉県立鎌ヶ谷高等学校

イタリア、フランスの海外研修旅行 ―歴史、文化のあるまち、美しいまちを訪ねて―

教授　天野光一

2018年２月28日から３月14日まで、48名もの学生と海外研修旅行に行ってきました。行程は、ローマ→ポンペイ→ナポリ→フィレンツェ→シエナ、サン・ジミニャーノ→フィレンツェ→ミラノ→ジェノバ→モンテ・カルロ調査→ニース→マルセイユ→パリであり、盛りだくさんに見えますが、これでも、ガイドの案内でついて回るだけでなく、自分の足と目で体験してもらいたいという考えから、訪問地を絞り、移動距離をおさえて、参加学生が各都市を自身で体験する時間を多くとったつもりです。

まずはローマです。写真❶は、コロッセオ付近での集合写真。この後のローマ自由散策で歴史を感じてもらえたでしょうか。歴史とその後のまちづくりが、訪問者に対してばかりでなく、居住者にも誇りの持てるまちを形成するために重要だと感じてもらえれば幸いです。

北イタリアのシエナでは、有名なカンポ広場から訪問が始まりました（写真❷）。あいにくの雨でしたが、まちづくりにとっての広場の重要性を実感してもらえたと思います。

この広場とまったく異なるのが、フィレンツェのミケランジェロ広場です（写真❸）。その都市を一望できる広場も日本ではなかなかお目にかかれません。もちろんまちの中心市街地も各都市で訪問しました。

写真❹はジェノバの中心街です。車が通るのも大変な道ですが、歩いて回るには魅力的なまちではありませんか。

訪問した各都市でまちを実感してもらいましたが、建築も見て回りました。世界文化遺産だからというわけではありませんが、ル・コルビュジエの建築では、マルセイユのユニテ・ダビタシオン（写真❺）に宿泊し、パリ郊外のサヴォア邸（写真❻）の見学もしました。

講義で学ぶことも重要ですが、実際に見学し、体験することは極めて重要です。この海外研修旅行が、学生諸君の今後の「まちづくり」に関する、大学での勉強や、卒業後の実務に少しでも役立てば幸いだと考えています。

写真❶　ローマ、コロッセオ付近

写真❷　シエナ、カンポ広場

写真❸　フィレンツェ、ミケランジェロ広場

写真❹　ジェノバ、中心街

写真❺　マルセイユ、ユニテ・ダビタシオン

写真❻　パリ郊外、サヴォア邸

学部３年生・修士１年生へ「就職活動へ向けて」

まちづくり工学科就職指導　仲村 成貴

みなさんにとって、いよいよこの後期は進路について真剣に考え、決断すべき時期となります。しっかりと取り組んでください.

１．スケジュール

日本経済団体連合会（経団連）は「採用選考に関する指針」の中で、みなさんが対象である2020年度入社の新卒者採用について、2019年３月１日以降に採用広報活動（会社説明会等)、同年６月１日以降に採用選考活動（採用試験)、同年10月１日以降に内定日、とするスケジュールを提示しました。経団連に加盟する企業はこのスケジュールに沿って採用選考することになっています。しかし、実際には外資系など経団連に非加盟の企業などを中心に、多くの企業がこれよりも早い日程で実質的な選考を進めていくと予想されます。

公務員１次試験は、例年、国家公務員総合職試験（今年度は４月29日実施）を皮切りに、都道府県庁、政令指定都市、国家公務員一般職、市区町村と順次実施されます（今年度は国家公務員総合職試験の前に横浜市役所の先行試験が4月22日に行われました)。１次試験を通過すると２次試験以降に臨むことになります。来年度の試験日程はまだ公表されていませんが、国家公務員試験採用情報 NAVI（http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm）や、公務員試験情報こむいん（http://comin.tank.jp/)、各自治体のホームページを頻繁に確認しておくことが大切です。なお、国家公務員試験に関しては例年２月初頭に試験スケジュールが発表されますが、地方自治体はそれぞれで申込期間や実施日が異なりますので注意してください。

本学大学院の入学試験は、例年、６月下旬～７月初旬（推薦・一般第１期)、９月（一般第２期)、３月（一般第３期）に行われます。大学院への進学もぜひ選択肢のひとつとして考えてください。

昨今の就職活動は短期決戦と言われています。経団連のスケジュールでは、非常に多くの企業が３月から５月の３カ月間に集中して採用活動を行うことになります。こういった短期決戦を乗り切るためには、早い時期に始動することが肝心です。まずは今から情報収集を始めてください。知らないことをやりたいとは思えないはずです。自分で情報を収集し、自分の可能性や選択肢を広げ、どんなに遅くとも年内には自分がやりたい仕事（業種)、志望企業を決めておきましょう。

２．情報収集しよう！

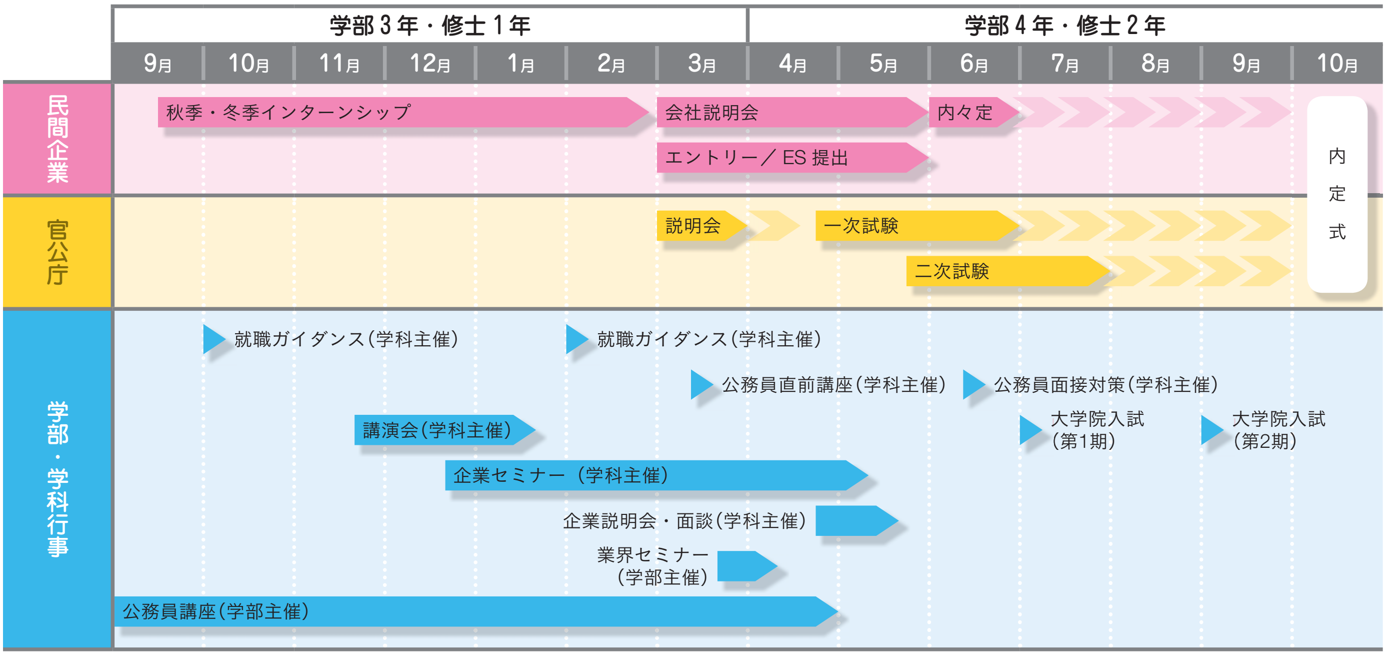
• 就活関連の冊子を活用しよう！

後期ガイダンスで「CAREER2019」を配布しました。理工学部オリジナルの就活用冊子です。有益な情報がコンパクトにまとまっていますので活用してください（近日中にスマートフォン版がダウンロード可能となります)。また、書店には SPI や玉手箱などの筆記試験対策、履歴書・ES（エントリーシート）の書き方、面接対策、公務員試験対策など就活に関する本が多数置いてあります。必要に応じて自分にあったものを選ぶと良いでしょう。

• 就活支援サイトを活用しよう！

リクナビ、マイナビ、キャリタスなどの就活支援サイトへの登録を済ませていますか？　まだの人はすぐに登録してください。各種の情報を入手できるだけでなく、秋季／冬季インターンシップ・合同セミナー・説明会などへのエントリーや申し込み、書類提出もこれらのサイト経由で行う企業がほとんどです。登録していないと情報が入手できないばかりか、採用試験を受けられないこともあります。

キャリア支援・就職活動の概略スケジュール



• **行事（インターンシップ、セミナー、説明会、講演会など）に参加しよう！**

夏休み中のインターンシップは就業体験が主目的でしたが、秋以降は就職活動の一環だと思ってください。また、秋以降には学内外でセミナーや説明会、講演会が開催されます。学内では、学科主催の「就職活動ガイダンス」「企業セミナー」「OB／OG・リクルータによる説明会・面談」「公務員１次試験・面接対策講座」、本部や学部主催の「公務員講座」「業界セミナー」など多数の講座が開催されます。学外では、就活支援サイトや各企業のホームページに開催告知が出ます。このような行事は、実際に働いている方々の話を直接聞いたり、質問をできる貴重な機会です。資料やインターネットだけでは分からないことがたくさんあるはずです。積極的に参加しましょう。

• **周りの人に相談しよう！**

自分一人で考えてばかりでは、悩むことも多々あるでしょう。自分の考えを整理し、自分の意思を確認するためにも、家族、友人、ゼミ・卒研の指導教員、就職指導課キャリアアドバイザーなど身近な人に相談すると良いでしょう。学科の就職指導担当教員（天野・小木曽・高村・田中・仲村・山﨑）、公務員指導担当教員（高村・後藤）も、もちろん相談にのります。

• **まちづくり工学科事務室を活用しよう！**

タワー・スコラ12階1210室のまちづくり工学科事務室および掲示板には、就活支援サイトには掲載されない学校推薦や学科宛の求人情報などの資料を整理し、みなさんが閲覧したり、自由に持ち帰ることができるようにしてあります。また、まちづくり工学科の先輩たちが残してくれた貴重な就職体験記・公務員試験合格体験記も閲覧できます。

• **就職指導課を活用しよう！**

就職指導課はタワー・スコラ６階にあります。窓口で申し出れば公務員試験の過去問題が閲覧できます。また、常駐のキャリアアドバイザーから、就職活動全般についての相談、ES（エントリーシート）や履歴書の添削、面接対策等の指導が受けられます。

３．資格について

建築士（一級・二級・木造）と国土交通省技術検定（土木施工・建築施工・建設機械施工・造園施工・電気工事・管工事の各施工管理技士）は、指定された科目を単位修得して卒業すれば、受験資格の要件（実務経験除く）を満たすことができます。該当科目で未修得の科目があれば、早めに単位取得することを強く勧めます。これらを採用の必須とする企業も多くありますし、そうでなくても要件を満たしておくことがみなさんの今後にとって有用となります。また、技術士補や宅地建物取引士の取得は、就職活動で有利とはなっても、不利となることは決してありません。この秋に受験予定の人は頑張ってください。

４．授業について

就活に気をとられ過ぎて授業を休んでばかりでは本末転倒です。大学は就職予備校ではありません。みなさんが最優先すべきことは大学での勉強であることを決して忘れずに。

この就職活動を機に、真剣に将来を考え、悩み、自分の道を切り拓いてください。われわれ教員は、できる限りみなさんをサポートしたいと思っています。相談があれば遠慮なくどうぞ。

平成30年度前期　“まち”行事・イベントカレンダー

3/25（日）　卒業式（学位記伝達式）、卒業パーティー

〈学位記伝達式〉143教室　15：50～17：00

〈卒業パーティー〉１号館カフェテリア　18：00～19：00

学位記伝達式を目前に控えた教室

第２期生卒業生数 120 名

卒業パーティー後に学科全体で記念撮影

4/3 (火) ガイダンス

〈**教室主任**〉八藤後　猛（補佐：後藤　浩）
〈**担任**〉1年生　後藤　浩、西山孝樹、山﨑　晋
（補佐：荒巻卓見）
勝木厚成、難波秀行（一般教育教員）
2年生　阿部貴弘、依田光正（補佐：落合正行）
3年生　田中　賢、小木曽　裕（補佐：牟田聡子）
4年生　天野光一、高村義晴、仲村成貴、押田佳子
（補佐：田島洋輔）
大学院　岡田智秀
〈**就職**〉仲村成貴、天野光一、小木曽　裕、高村義晴、
田中　賢、山﨑　晋
〈**学務**〉後藤　浩
〈**広報**〉岡田智秀

4/6 (金) 新入生歓迎式（船橋キャンパス）

4/16　インセンティブ後の新入生集合写真

5/12 (土) オリエンテーション

専門科目の学習が本格化する2年次前期の授業外に、学科独自でオリエンテーションを実施しています。実際にまちに出てその現場を自分の目で見て理解する体験が、まちづくりのさまざまな専門家へ成長していく自覚につながるものと期待しています。

Aコース　**五感で楽しむ初夏の神楽坂まち歩き～神楽坂界隈に積層する新旧まちづくりプロジェクトを訪ねる～**　阿部貴弘

Bコース　**東京の近代土木遺産を訪ねる**　天野光一

Cコース　**海の上からまち巡り「東京新名所・発掘クルーズ」**　岡田智秀

Dコース　**お洒落な原宿・表参道の歴史と今～都市計画とランドスケープと食の視点で探訪**　小木曽　裕

Eコース　**まちづくりのための治水・利水施設「ダム」の大きさ・デザインを感じる**　後藤　浩

Fコース　**参道の魅力と問題点を探る～新時代のまちづくりを考える～**　高村義晴

Gコース　**江戸東京たてもの園～古き良き懐かしの街並みをみる**　田中　賢

Hコース　**小江戸川越まちあるき「名所＋α巡り」**　仲村成貴

Iコース　**秋葉原の歴史と文化探訪 青果市場から電気街、そして世界へ～文化の発信へ**　八藤後　猛

Ｊコース　世界標準のユニバーサルデザイン設備　依田光正

Ｋコース　350年の歴史観光ルート・鎌倉～江の島を廻る　押田佳子

Ｌコース　時代を超え、国を超えて多様な文化が交わる成田をゆく　西山孝樹

Ｍコース　横浜みなとみらい地区周辺散策　山﨑　晋

6/10（日）　付属高校生のためのオープンカレッジ（駿河台キャンパス）

まち科ブース来場者数：269名

理工学部総来場者数：676名

6/30（土）　後援会父母面談会（船橋キャンパス）

7/15（日）　駿河台入試フォーラム（駿河台キャンパス）

まち科ブース来場者数：　329名

理工学部総来場者数：1,874名

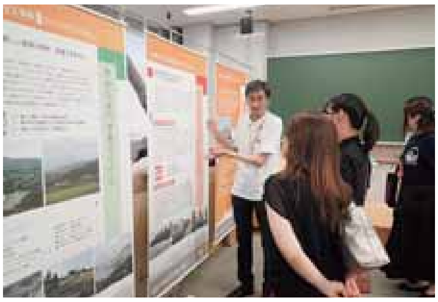
8/5（土）6（日）　オープンキャンパス（船橋キャンパス）

まち科ブース来場者数

・１日目：541名　　・２日目：401名

理工学部総来場者数

・１日目：3,075名　　・２日目：2,940名



8/25（土）　後援会地方父母懇談会

まち科出席状況

・宮城会場（田中　賢）　１組
・新潟会場（八藤後　猛）　１組
・愛知会場（山﨑　晋）　１組
・大阪会場（押田佳子）　２組
・福岡会場（高村義晴）　２組

9/25（火）　９月卒業式

まち科卒業生：２名

新任教員紹介

2018年４月１日より着任されました。よろしくお願いいたします。

新 任

助手
荒巻卓見（あらまきたくみ）

最終学歴	2017年	日本大学大学院理工学研究科博士後期課程建築学専攻修了
学　　位	2017年	博士（工学）／日本大学
職　　歴	2017年	日本大学　ポスト・ドクター研究員
座右の銘	失敗するから成功がある	

校友会役員（父母役員）

１年生　渡邉和樹　２年生　菊池秀夫　３年生　榎本雅夫
４年生　井上浩之　大学院　飯村浩治

◆ お知らせ

まちづくり工学科 第３回

海外研修旅行（予定）

2019年８月下旬～９月上旬
※詳細は次号（３月発行予定）で案内します。

教員人事

■ 昇格

阿部貴弘准教授が「教授」へ昇格（4/1）
依田光正准教授が「教授」へ昇格（4/1）
西山孝樹助手が「助教」へ昇格（4/1）

昇 格

昇 格

昇 格

■ 学科主任人事

八藤後猛教授が「教室主任」退任（9/30）
岡田智秀教授が「教室主任」就任（10/1）
※教室主任の就任・退任のごあいさつは次号（３月発行予定）に掲載します。

退 任

就 任

LA SCHOLA

理工学部新校舎「タワー・スコラ」が竣工しました 2018.7.24

2018年７月、駿河台キャンパスに地上18階地下３階の新校舎が竣工しました。これまで「南棟」と仮称で呼ばれていましたが、公募で選ばれた「タワー・スコラ（アルファベット表記　LA SCHOLA）」と命名されました。

まちづくり工学科は、これまで４号館、５号館、お茶の水校舎に研究室が点在しておりましたが、「タワー・スコラ」の12階に研究室と事務室が集約されました。なお、13階には製図室、院生室等が所在しています。

熱い議論を交わしたり、時には談笑したりと、さまざまな思い出が詰まった研究室の移動は名残惜しさもありましたが、ここ新校舎から新たな歴史の一歩が刻まれていくことに大きな喜びも感じています。

在学生はもちろん、卒業生の皆様もぜひ一度お越しください。学科一同お待ちしています。

教職員・学生の活躍　2018年３月１日～９月30日

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

［受賞］

■ 助手 荒巻卓見

一般社団法人　第72回セメント技術大会「優秀講演賞」

対　　　象：セメントの添加による版築の強度向上に関する検討
受賞年月日：2018年８月１日

■ 助手 落合正行

第２回大田区景観まちづくり賞　街並み景観部門

対　　　象：いけのうえのスタンド
受賞年月日：2018年５月30日

■ 修士課程２年 渡辺万紀子

平成30年度土木学会全国大会広報関連行事「ベスト・イノベーター・オブ・土木偉人」ベストプレゼンター

対　　　象：発表偉人［田辺朔郎］
受賞年月日：2018年８月29日

■ チーム：腰越の魅力向上委員会
学部３年生　東山将実（代表）、片山風花、
４年生　倉津耕大、佐藤悠貴

第６回鎌倉市まちづくりプランコンテスト 決選大会 最優秀賞

対　　　象：線路をわたれば～江ノ電景観まちづくりプロジェクト in 腰越～
受賞年月日：2018年７月１日

［テレビ番組に出演］

■ 准教授 押田佳子

NHK BS プレミアム「偉人たちの健康診断」徳川光圀（徳川光圀公による「新編鎌倉誌」編さんについてコメント）

放　送　日：2018年３月７日

［書籍に掲載］

■ 教授 阿部貴弘

記事「12. 災害からの復興 ― 帝都復興事業」（pp.149-166）
「13. 植民地経営 ― 満州」（pp.167-180）

掲　載　書：『図説 近代日本土木史』（鹿島出版会）
発行年月日：2018年７月

［新聞・雑誌に掲載］

■ 教授 阿部貴弘

記事「見て歩き土木遺産　中野駅周辺を歩く」

著　　　者：阿部貴弘、柳川星、金子竜太朗、工藤隼人、久保大樹、小池礼鴻、篠原涼
掲　載　誌：『月刊　土木技術』（理工図書）
発行年月日：2018年４月

記事「見て歩き土木遺産　港町横浜を歩く〈その３〉～元町・山手地区の土木遺産～」

著　　　者：阿部貴弘、江口真由、工藤隼人、久保大樹、小池礼鴻、篠原涼、寺田希
掲　載　誌：『月刊　土木技術』（理工図書）
発行年月日：2018年７月

■ 教授 後藤　浩

記事「時々刻々「豪雨　94病院被災」」（コメント掲載）

掲　載　紙：朝日新聞 全国版 朝刊 第２面
発行年月日：2018年７月15日

記事「地域医療に豪雨打撃」（コメント掲載）

掲　載　紙：日本経済新聞 全国版 夕刊 第13面
発行年月日：2018年８月８日

■ 助教 山﨑　晋

記事「まちづくり分野での設計教育の意義」

掲　載　誌：『建築士』（日本建築士連合会）
発行年月日：2018年７月

記事「地域の課題解決と副業・プロボノ」

掲　載　誌：『建築士』（日本建築士連合会）
発行年月日：2018年８月

記事「男女共同参画を男性視点から考える」

掲　載　誌：『建築士』（日本建築士連合会）
発行年月日：2018年９月

■ 助手 落合正行

記事「これからの街と暮らし「長原・いけのうえのスタンド」」

掲　載　誌：『街の手帖 池上線』27号 春号
発行年月日：2018年３月23日

記事「学会発 第３回「「複合」建築計画学」」

掲　載　誌：『建築雑誌』2018年３月号（日本建築学会）
発行年月日：2018年３月

記事「都市と農のケーススタディ「あだち農まちプロジェクト」」

掲　載　誌：『都市計画』332号（日本都市計画学会）
発行年月日：2018年５月15日

編集後記

横内先生から引き継ぎ、西山先生と私で編集委員となりました。本号の特集は、まちづくり工学科の在学生にとっても、受験を望む高校生や学外の方々にとっても、いま一番重要なことは「就職」と考えテーマとしました。寄稿していただいた１期生全員の原稿を、声に出して読ませていただきました。就職して１年半でこれだけのことが書けるまでに成長されたのだと感動し涙が出ました。ご執筆に感謝いたします。さらに、先生方には多くの情報をいただき、ここに刊行できることを感謝申し上げます。皆様引き続き宜しくお願いいたします。（小木曽裕）